

主な出来事

【内政】

- 野党BCP, 5月に予備選を実施
- 野党連合UDC, 党大会を開催

【外政】

- カーマ大統領, ナミビアを公式訪問
- サンゲ・チベット亡命政府首席大臣, ボツワナを訪問
- ムナンガグワ・ジンバブエ大統領, ボツワナを公式訪問
- 日本, 児童の機会均等のため無償資金協力
- 竹田新日本大使インタビュー
- EU大使館, ボツワナ政府に死刑制度廃止を求める投稿記事
- シリア問題に対するボツワナ政府声明

【経済】

- COMESA-EAC-SADC3地域間FTAへの署名
- 2018/19年度財政演説の発表

【文化】

- 日本のソフトボールチームがボツワナに

【内政】

○ ボツワナ, 「法の支配」ランキングで世界45位

ワールド・ジャスティス・プロジェクト(WJP)による2017年「法の支配」ランキングで, ボツワナは評価の対象となった113カ国中で昨年と同じ45位にランクされた。なお, サブサハラ18カ国中では3位にランクされた。(7日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ 首席判事, 退任の意向

6日, ディボテロ首席判事はハボロネ高等裁判所で開催された法定年度開始式典において, 4月30日をもって退任する意向を示した。同氏は, 長年公務員として法務に携わり, その後判事を13年間, 首席判事を7年間務めていた。(7日:デイリー・ニュース紙)

○ 野党BCP, 5月に予備選を実施

野党ボツワナ会議党(BCP)の広報担当は, 5月末までに予備選を実施することを明らかにした。当初, 予備選は昨年12月に実施する予定であったが, BDPと共に野党連合「民主改革のためのアンブレラ(UDC)」に所属するボツワナ民主運動党(BMD)が党の分裂騒動を起こしたことにより, 予備選は延期されていた。(9日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ ボツワナで死刑が執行

17日、殺人罪の罪に問われていたジョセフ・ツェラヤロナ死刑囚の刑が執行された。同死刑囚は2010年に当時付き合っていた女性及びその息子を殺害した罪で懲役20年を命ぜられたが、その後、情状酌量の余地が無いことが明らかになり、2017年10月に死刑判決を言い渡されていた。カーマ大統領は、死刑執行数日前の大統領送別式典スピーチの中で、死刑制度は殺人犯罪の抑止効果があると、制度の廃止を否定していた。(19日:モニター紙)

○ ボツワナ, SDGsロードマップを策定

22日、ボツワナにおけるSDGsロードマップ策定を記念する式典が開催され、マシシ副大統領、バリンズUN常駐調整官兼UNDP常駐代表、マディヘレ高等教育・研究・科学技術大臣等が同式典に出席した。マシシ副大統領は、同式典において全ての人々に尊厳のある暮らしを提供する包括的な社会を達成するためには国家レベル及び地域レベル双方において協調する基盤が必要不可欠であると述べた。(22日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ, 腐敗認識指数ランキングでアフリカ1位

トランスペアレンシー・インターナショナルが発表した世界・腐敗認識指数ランキングで、ボツワナは22年連続となるアフリカ1位にランクされ、同大陸で最も腐敗が進んでいない国とされた。なお、調査対象となった世界180カ国の中では、34位にランクされた。(23日:デイリー・ニュース紙)

○ 野党連合UDC, 党大会を開催

23日、野党連合「民主改革のためのアンブレラ(UDC)」の党大会が開催され、野党連合の体制、政策、規約の他、連合内の選挙区割り振りが協議された。党分裂騒動を起こしていたボツワナ民主運動党(BMD)の連合内での去就が目されたが、周囲の予想に反して、BMDは連合から追放されることなく14選挙区を割り振られた。(23~26日:ボツワナ・ガーディアン紙, モニター紙)

【外交】

○ カーマ大統領, ナミビアを公式訪問

カーマ大統領は5日から6日までナミビアを公式訪問した。カーマ大統領とナミビアのガインゴブ大統領は、国境問題を解決すべく両国間の国境線を再確認し二国間国境協定に署名を行った(当館注:ナミビア人密猟者がチョベ国立公園付近でボツワナの自然保護官により射殺されることが両国間で問題となっていた)。また、南部アフリカ関税同盟(SACU)の現議長でもあるカーマ大統領は、ナミビアに所在するSACU本部を訪問した。(5日:デイリー・ニュース紙)

○ サンゲ・チベット亡命政府首席大臣, ボツワナを訪問

チベット亡命政府の政治的指導者であるロブサン・サンゲ首席大臣(首相)がボツワナを訪問し、7日、ポト大学にて公開講義を行う予定。ラムゼイ・ボツワナ政府報道官はインタビューに対し「中

国政府は間違いなくこの訪問を面白く思っていないだろう」と述べた。昨年、ダライ・ラマのボツワナ訪問が発表されたことで、中国政府はボツワナ政府に対し同氏の招待を取り止めるよう警告し、訪問は中止となっていた。(7日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ ムナンガグワ・ジンバブエ大統領、ボツワナを公式訪問

12～13日、ムナンガグワ・ジンバブエ大統領はボツワナを公式訪問した。同大統領は、首脳会談、国民議会演説、ビジネスフォーラム等の日程を終えた後にダイヤモンド・トレーディングセンターを見学した。また、本訪問に先駆けて両国外相により行われた合同評議会(JPCC)では、二国間委員会(BNC)の設立が合意された他、貿易・投資、犯罪者引渡条約、航空サービス、リンポポ川流域委員会、ザンベジ川流域委員会、国境管理、ジンバブエの対ボツワナ債務(口蹄疫ワクチン)等につき協議された。(9～14日:デイリー・ニュース紙、ボツワナ・ガーディアン紙等)

○ チベット亡命政府サンゲ首席大臣の公開講義が中止

チベットの宗教的指導者ダライ・ラマの右腕とも言われ、ボツワナを訪問中のロブサン・サンゲ・チベット亡命政府首席大臣(首相)は、7日、ボト大学にて公開講義を行うとされていたが、開演数分前に突如中止となった。(13日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ 日本、児童の機会均等のため無償資金協力

9日、草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「セントラル地区マラツワエ村幼稚園計画」の契約署名式が実施された。本事業で日本政府は同幼稚園の建設のため82,720ドルをセントラル地区セロウエ地域支部に供与する。竹田大使はスピーチの中で、才能豊かな子供達の育成はすべての関係者が共に協力し合うことによって達成されると述べた。(16日:ガーディアン紙)

○ 竹田新日本大使インタビュー

ボツワナ・ガーディアン紙は昨年11月に着任した竹田新日本大使のインタビュー記事を掲載。同大使は、インタビューに対し、2018年は在ボツワナ日本大使館の開設10年を迎え、これまで培った緊密な関係を基礎とし、次の10年に向け、引き続き日・ボツワナの友好関係の強化・発展に尽力していきたいと述べた他、二国間関係やボツワナ経済発展の展望等について語った。(16日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ EU大使館、ボツワナ政府に死刑制度廃止を求める投稿記事

22日、ボツワナ・ガーディアン紙は、当地EU大使館による死刑制度廃止を求める投稿記事を掲載。EUは、17日にジョセフ・ツェラヤロナ氏が処刑されたことに対し、遺憾の意を示すと共に、死刑制度の適用は決して正当化することは出来ないとしてこれに反対し、死刑制度に関する公開討論を行うようボツワナ政府に求めた。(23日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ アンゴラ大使の離任

23日、ネト・アンゴラ大使の離任レセプションが開催され、カーマ大統領も出席し同大使に別れを告げた。2月28日をもって17年の任期を終える同大使は、スピーチの中で、更なる二国間関係の強化のため3月31日よりボツワナ国民がアンゴラに入国する際の査証要件を緩和する旨発表した。(26日:デイリー・ニュース紙)

○ シリア問題に対するボツワナ政府声明

27日、ボツワナ政府はデイリー・ニュース紙にシリア問題に対するボツワナ政府声明を掲載した。政府は国連安保理により採択されたシリア30日間停戦決議を歓迎する一方で、シリア問題を解決できないでいる国連安全保障理事会に対して遺憾の意を示すと共にシリア国民が平和で尊厳ある生活を享受できるよう適切な役割を果たすよう求めた。(27日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2017年第3四半期の経済成長率は、前期比6.5%(2017年第2四半期の経済成長率は、前期比0.4%)。

2) インフレ率(出典:ボツワナ銀行)

2018年1月は3.1%(2017年12月は3.2%)。

3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2018年2月28日

1プラ=0.102米ドル
1プラ=1.181南ア・ランド
1プラ=11.01円

2018年1月31日
1プラ=0.102米ドル
1プラ=1.196南ア・ランド
1プラ=11.16円

○ ダイヤモンド産業

1) デビアス社のダイヤモンド原石販売、6億6500万ドルを記録

デビアス社の2018年第1期におけるダイヤモンド原石の売上は6億6500万米ドルを記録し、同売上は昨年同時期の売上7億2900万米ドルに比べ減少した。クリーバー・デビアス社 CEO は、デビアス社の第1期における販売額は通常年間を通じて他の期に比べて多く、今次売上結果により今年の売上も好調が期待できる旨発言した。(3日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ COMESA－EAC－SADC3地域間FTAへの署名

30日、ボツワナはCOMESA、EAC及びSADCの3地域自由貿易協定(TFTA)に署名した。ハボロネで行われた署名式には、セレツェ投資・通商産業大臣、ングウェニャCOMESA事務局長、モロンゴSADC事務局次長、ボツワナ政府高官及びボツワナ商工会議所会長が出席し、セレツェ大臣がTFTAに署名した。ボツワナは22番目の署名国となった。(1日:デイリー・ニュース紙)

○ 2018／19年度財政演説

5日、国民議会にてマタンボ財務・経済開発大臣が、2018／19年度予算案に関する演説を行った。演説の中では、2018／2019年度の予算案は、政府歳入642.8億プラ、政府歳出678.7億プラとなり、35.9億プラの財政赤字が見込まれ、省庁に配分される経常予算は、基礎教育省及び保健省への配分を中心に合計451.4億プラが計上、開発予算は国土・水・衛生サービス省及び司法・国防省への配分を中心に193.1億プラが計上される旨の発表がなされた。(6日:デイリー・ニュース紙)

○ 中国人実業家、パカラネ地区に投資

億万長者の中国人実業家であるTouchroad International Group代表取締役のHe Lihui氏はパカラネ地区の45haを購入し、5000万米ドル規模の町を建設する旨述べた。建設される町はTouchroad Peninsula International Gardenと名付けられる予定で、アパート、ショッピングセンター、病院、学校等が建設される予定。同氏は、現在計画の設計が最終段階にあり、年内には工事を開始したいと述べた。(7日:ガーディアン紙)

○ ボツワナ銀行、基本割引率・基準貸付利率を5.0%に維持

13日、ボツワナ銀行は、インフレ率が政府目標の3～6%内となっていることを受け、基本割引率・基準貸付利率(当館注:従来の公定歩合)を5.0%に維持することを決定した。(17日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ カサネ国際空港新ターミナルビルの開所式

22日、カサネ国際航空の新ターミナルビルの開所を記念する開所式が開催され、カーマ大統領、モカイラ運輸通信大臣等が同式典に出席した。新ターミナルビルは4億3000万プラの費用をかけて建設された。カーマ大統領は、カサネはチョベ国立公園及びビクトリア・フォールズへのアクセスを提供する出入り口であり、新ターミナルビルが完成したカサネ国際空港は同地域の他の観光活動も促進する旨発言した。(23日:デイリー・ニュース紙)

○ SPEDU特別税制の開始

16日、マタンボ財務・経済開発大臣はSPEDU地域(セレビ・ピクウェ等)における企業への特別税制に係る所得税法の改正を官報に掲載した。官報によると、セレビ・ピクウェ、ポボロン、マディ

ナレ・セフォフィ, レララ・マウナタラ及び近隣の村等における企業は通常22%の法人税を5%に、一次原料輸入時の関税免除, 土地貸与・その他許可等の迅速化等のインセンティブを受けることができる。(23日: デイリー・ニュース紙)

【文化】

○ 日本のソフトボールチームがボツワナに

ボランティアとしてボツワナに派遣されている中京大学女子ソフトボールは2週間の技術交流を今週ハボロネで開始した。同チームはボツワナソフトボール連盟(BSA)の選抜チームとともに今後グッドホープやマスンガへの遠征を予定しているほか、本年8月に千葉で行われる世界ソフトボール大会に出場するボツワナ女子代表チームとも親善試合を行う予定。(9日: ガーディアン紙)

○ ボツワナ人留学生, 日本で学び続ける

10日, 国費留学生OB・OGで構成されるフレンズ・オブ・ジャパンの第5回レセプションが大使公邸で開催された。レセプションにおいて, 竹田大使は高度な専門知識と技術を習得したボツワナ人留学生がリーダーとなり, ボツワナのみならず, 二国間の関係強化及びアフリカ大陸に貢献することを期待する旨発言した。(26日: デイリー・ニュース紙)